



TITLE:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第24巻  
第2号) 編集後記・編集委員・購読  
要項・投稿内規

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第24巻第2号) 編集後記・編集委員・購読要  
項・投稿内規. 泌尿器科紀要 1978, 24(2): 178-178

ISSUE DATE:

1978-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/122169>

RIGHT:

# 泌尿器科紀要

第24巻 第2号

1978年2月

腎スキャン剤 $^{99m}\text{Tc}$ -DMSA の腎局在性にかんする基礎的研究	細川 進一・ほか	61
原発性尿管細網肉腫の1症例(英文)	楠見 博	65
膀胱後部肉腫(横紋筋肉腫)の1例	柏原 昇・ほか	71
膀胱後部腫瘍の1例(紡錘形細胞肉腫)	石川 英二・ほか	77
Calcified Bladder Cancer の1例:膀胱癌の石灰化について	藤岡 秀樹・ほか	81
無抑制型神経因性膀胱の薬物療法:尿水力学の検査法による Timepidium Bromide の薬理効果の検討	福井準之助・ほか	87
神経因性膀胱に対するロバベロンの治療効果	園田 孝夫・ほか	109
前立腺癌の高危険度群と予防癌学をめぐる workshop	渡辺 決・ほか	129
前立腺肥大症に対するゲスタノン $17\alpha$ -allyl- $17$ - $\beta$ -hydroxy-ester-4-one) の使用経験について	山下 霸世・ほか	145
小児急性リンパ性白血病の寛解期における睾丸浸潤の1例	西本 直光・ほか	155
Wegener 肉芽腫症にみた睾丸膿瘍の1例	神田 英憲・ほか	161
大阪大学泌尿器科学教室における最近5年間(1972~1976)の 手術症例について	佐川 史	167

## CONTENTS

Basic Studies on Intrarenal Localization of Renal Scanning Agent $^{99m}\text{Tc}$ -DMSA	S. Hosokawa et al.	61
Primary Reticulum Cell Sarcoma of the Ureter: Report of A Case	H. Kusumi	67
Retrovesical Rhabdomyosarcoma: Report of A Case	N. Kashihara et al.	71
Retrovesical Tumor (Spindle Cell Sarcoma): Report of A Case	E. Ishikawa et al.	77
Calcification in Carcinoma of the Urinary Bladder: Report of A Case	H. Fujioka et al.	81
Treatment of Uninhibited Neurogenic Bladder Dysfunction with Anti-cholinergic Agent	J. Fukui et al.	87
Therapeutic Effect of Robaveron for Neurogenic Bladder Dysfunction	T. Sonoda et al.	109
A Workshop around the High Risk Group and the Preventive Oncology of Prostatic Cancer	H. Watanabe et al.	129
Treatment of Benign Prostatic Hypertrophy with Allylestrenol	A. Yamashita et al.	145
Testicular Relapse in A Boy with Acute Lymphocytic Leukemia during Bone Marrow Remission	N. Nishimoto et al.	155
Testicular Abscess with Wegener's Granulomatosis: Report of A Case	H. Kanda et al.	161
Operations during Five Year Period (1972~1976) at the Department of Urology, Osaka University Hospital	S. Sagawa et al.	167

## 編 集 後 記

私の本誌の編集は本号で終るが、編集後記もこれが最後である。編集10年の経験は私にとって貴重な財産となった。月刊誌であるため短期間の不在も影響が大きいから、海外出張も辞退し、編集と校正に専念するところとなったが、みずからの学界への寄与と少なきことは心苦しい。しかし多くの論文に接しえたのは、この上ないよろこびであった。ご投稿いただいた先生がたに感謝している。

10年のあいだに論文のスタイルもかわってきた。単独著者による長編論文はきわめて少なくなり、要領よくまとめられた共著論文が多くなってきた。いわゆる主論文という体裁で、ページ数の多さに価値を認める風潮は完全に過ぎ去ったとみなしてよい。

泌尿器科紀要の今後の発展は、読者のご協力によってのみ可能である。とくに、新進のドクターからの活発なご投稿をお願いする気持ちをこめて、チェーホフのことばをしるしておきたい。

「上手に書くということは削ることだ」

「簡潔は才能の姉妹だ」

(T. T.)

## 編 集 委 員

石 神 襄 次	前 川 正 信	宮 崎 重	新 谷 浩
園 田 孝 夫	友 吉 唯 夫 (副主幹)	吉 田 修 (主 幹)	

## 購 読 要 項

1. 発行は原則として毎月とし、年間購読者を会員とします。
2. 会員は年間予約購読料 5,000 円 (送料とも) 前納していただきます。  
分売は原則としていたしません。払込みは振替に限りです。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。外国は送料とも年間25ドルです。
3. 入会は氏名 (フリガナ)、住所 (雑誌郵送先)、勤務先をご記入のうえ編集部あて、はがきにてお申し込みください。

## 投 稿 内 規 (1969年1月改正)

1. 原稿の種類は総説、原著、臨床報告、その他。和文または英文とします。
2. 原稿の長さは制限しませんが簡潔に願います。
3. 和文原稿は 400 字詰原稿用紙横書きとし、当用漢字、平かな、現代かなづかいを用い、片かなには「」を要しません。表、図の説明はなるべく英文にしてください。文中欧語学術用語は固有名詞、記号以外はキャピタルではじめる必要はありません。必ず英文抄録をつけ、これには英文の表題、所属機関名、ローマ字著者名も記入しておいてください。  
英文抄録は詳細なものを歓迎します。ご希望の場合は当編集部にて作成しますので、抄録用の和文原稿を別につけてください。翻訳の実費は申し受けます。
4. 英文原稿の場合はタイプでダブルスペース打とし、和文表題と和文抄録をつけてください。
5. 数字はすべて算用数字を使用し、数量の単位は m, cm, mm, cc, ml, kg, g, mg, °C, μ, %, pH などを使用し、は不要です。また BUN IVP NPN PSP TUR など、を要しません。
6. 表、図、写真などはすべて別紙とし、説明は和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2 等としてください。
7. 文献の書式は次のようにしてください。  
A 雑誌の場合 著者名: 誌名, 巻数: 頁数, 西暦年次。(論文題名は自由です)  
文献名は正式略称を用いてください。  
例: 日泌尿会誌, 臨床皮泌, 皮と泌, 泌尿紀要, 臨泌; J. Urol., Invest. Urol., Zschr. Urol. 等。  
B 単行本の場合 著者氏名: 書名, 版数, Vol. 数, p. 数, 発行所, 出版地, 年次。
8. 校正は初校のみ著者にもお願いし、再校以降は編集部のみがおこないます。著者複数の場合、校正責任者をお示しください。
9. 原稿は返却いたします。
10. 原稿到達日を受付日とし、予約による受付けはいたしません。
11. 原稿送り先は、〒606 京都市左京区聖護院 京大病院 泌尿器科紀要編集部、書留便。

---

泌尿器科紀要 第24巻 第2号	1978年2月25日 印刷	1978年2月28日 発行
創刊 稲 田 務	顧問 加 藤 篤 二	定価 500 円 (送料別)
発行 吉 田 修	発行所 泌尿器科紀要編集部	
〒606 京都市左京区聖護院川原町54	京都大学医学部泌尿器科学教室 電話 (075) 751-3327 (直通)	
	印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入	

---